

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2071400341		
法人名	株式会社 ふくし館		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	長野県茅野市湖東7050番地1 (電話) 0266-82-1756		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】 (平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤12人, 非常勤 4人,	常勤換算14.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000円～61,000円	その他の経費(月額)	冬季 5,000 円
敷 金	有 (家賃一ヶ月分)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,150 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	7	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 86.7 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・薄井内科医院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地より離れて建つ当ホームは田んぼと雑木林に囲まれ遠くに八ヶ岳が眺められ、居ながらにして四季を満喫できる。入居前から慣れ親しんできた風景に似ており住む人を安心させる環境である。生活の様子は写真に収め、一人ひとりの生活歴アルバムを作っている。絵本風のアルバムは見る人を楽しませてくれる。更にページ数を重ねて行って欲しい。職員育成に関しては介護の勉強以外に詩(金子みすず)や「ごんぎつね」(新美南吉著)などから社会福祉を考え、知識や教養を高めている。入居者に寄り添う職員の姿は基本を崩さずスペシャリストに徹していた。新しい理念の下、更に地域との交流が深まることで地域の拠り所、ふれあいの場所になれるホームであり、今後を大いに期待したい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流に関しては住民の見学や学生の研修場所、習い事の発表の場としてホームを積極的に開放しており、入居者・職員がともに地域との交流機会を増やすなど改善されてきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は今回で3回目であり職員の意見を聞きながら作成された。提供しているサービスを見直し介護の質の向上や改善に活かすことができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回開催している。会議ではホームの活動や様子などを報告し、メンバー(区長、市役所の職員、介護相談員、家族会の代表、社会福祉協議会の職員、家族代表など)と意見交換している。数十年前に出来た近くの大住宅地の住民の高齢化が進み介護やホームへの関心も高まっており今後は老人会への参加も考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今回は家族会を敬老会と合わせて行ったところ大勢の家族の参加があった。家族交流では同じ思いであることを知る機会となり好評であった。今後は家族会を行事とあわせ開催することも考慮している。家族等は要望や苦情など、直接言いにくい時は家族会の会長を通し伝えている。出された要望や意見は全職員で話し合い、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	社会福祉協議会と連携しホームの資源を活用している。近くの大学生や高校生の実習や研修、会合の場所などに開放している。近隣の住民が習い事の発表場所として歌や踊り、楽器の演奏のために訪問したり、散歩の途中に立ち寄りたりしている。また、見学に訪れる数も増えており住民との交流の機会は多くなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を見直し、「入居者が地域社会の一員として暮し続けること」、「その人らしい人生が送れることを支える」等を謳った理念に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の会議と午後の引継ぎ、毎月の職員会議等で日々のケアを話し合い職員の意識合わせや確認が行われている。管理者は日々の様子を視たり、毎日リーダーから報告を受けながら理念の実践に向け助言している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会福祉協議会と連携し資源を活用しながらホームを開放している。理科大学生や高校生の実習場所として受け入れを続けている。歌、踊り、楽器の演奏など習い事の発表場所としての訪問や見学に訪れる数も増えており住民との交流の機会は多くなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的、活用の仕方を管理者から説明を受け自己評価の作成に参加している。評価で見い出された地域との交流を更に深めることなどに取り組んでいる。前回の外部評価結果はホーム内に掲示されていた。		

グループホームすずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議を開いている。会議ではホームの入居者の様子や活動などを報告しメンバーと意見交換している。出された意見などは定例会で職員に報告している。自己評価、外部評価結果も会議で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か不明なことや困ることがあれば出かけて行き相談している。行政担当者とは気軽に相談できる関係が出来ている。介護相談員が毎月二回訪問している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	預かり金は記録簿（全体用に記録し個人用に転記）で管理されている。家族が見えた時には健康状態の報告や個人ファイル、記録簿の確認とサインを頂いている。ホーム便りの代わりとして、管理者が行事の案内や日々の暮らしぶりなどを手書きの手紙で写真とともに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年一回開かれているが必要に応じ臨時に開催することもある。家族等が要望や苦情などを直接言いにくい時は家族会の会長（毎週来訪）を通して話しをしている。出された要望や意見は全職員で話し合い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの入居者18人と全職員が一つの大家族として生活している。新しく入職する職員は3日間ボランティアとして入居者と関ってから職員になっている。新職員は一ヶ月間、大家族に嫁に来たつもりで家風やしきたりを学び職員となる。分からないことは大姑、小姑的な立場の入居者に教えてもらっている。時には入居者から『あなたは乱暴ね〜』とか『良かったね』など注意されたり褒められることもあると伺った。		

グループホームすずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当主治医による医療研修会（医学の勉強）や認知症の研修会、介護支援専門員や介護福祉士などの資格取得のための勉強会を開催している。外部研修に参加した時は全職員に内容を報告し共有している。マニュアル、教材資料や研修会資料などは全職員に配布している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茅野市グループホームネットワークに参加し情報交換をしている。自分たちで直接見たり感じたりする交流をしたいと思っていたところ管理者講習会で市外のグループホーム管理者と知り合い、それが縁で相互訪問の約束をして早速受入れをした。職員らは初めて経験する同業者への訪問に意欲を見せている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者が安心して、納得した上でサービスの利用が開始できるようにホームを見学してもらい、職員が家庭訪問している。5日前後の入居体験後家族等と話し合い納得が得られれば本入居となる。体験入居期間は毎日の様子を家族に報告し話し合っている。馴染みの関係が出来ない状況で突然にサービスを開始したケースはない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員らは入居者を人生の先輩であるという考えを共有している。入居者からは山菜の料理の仕方、散歩に出たときには道端の食べられる草花の話や戦争のこと、諏訪地方の方言や語り話など日々沢山のことを学んだり、教えてもらっている。時には労わってもらったり励まされることもある。		

グループホームすずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々入居者の様子を見守り、声をかけるなどして一人ひとりの思いの把握に努めている。意思表示が困難な入居者に関しては表情から汲み取っている。個別対応に取り組んでおり入居者一人ひとりの動きや様子から今何をしたいのか、何をしようとしているのかを感じ取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状態や希望等を基にケアマネジャーが全職員から意見を聞きながら本人本位の介護計画を作成している。作成された介護計画は入居者や家族に説明し確認印を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画にそって毎日実施状況を記録している。定期的な見直しの他に入居者の状況の変化や家族などからの意向の変更があれば必要に応じて計画を見直し現状に即した新たな介護計画に作りなおしている。		
3. 滝野を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で付き添いができない通院や受診、買物などには家族に代わり職員が同行している。今後はショートステイなど事業所の多機能性を強化したいと取り組んでいる。		

グループホームすずらん


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居者や家族の意向にそっている。入居者が病気や負傷などにより治療や検査が必要になった場合は主治医やホームの協力医療機関と連携し必要な支援が受けられるようになっている。専門医とも連携をとりながら必要に応じ相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に関しては意思確認書を入居者家族等から頂いている。本人の状態に応じ主治医、家族、職員等関係者が繰り返し話し合いを行っている。最期までホームのサービスを受け続けたいと希望する入居者家族は多く、安心して納得して過ごしていただけるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法を理解し、秘密保持の徹底が図られている。入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はおおまかに決まっているが入居者の体調やその時の気持ちを尊重し柔軟に対応している。一人ひとりが自分のペースで生活できるように見守り支援している。		

グループホームすずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との関わりがより多く必要となり現在は2ユニットが交代で食事を作っている。食事中はお茶をすすめたり料理の出来具合を聞いたりユックリ、楽しみながらの食事となるように努めていた。食事作りは出来なくても後片付けには意欲的に加わる入居者の姿を見ることが出来た。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決めているが予備日を設けており入浴しなかったり希望する入居者が入れるように支援している。嫌がる入居者には無理強いせず時間を置いて声を掛けなおしたり、他の入居者が自ら職員に代わり声をかけに行くこともあると伺った。入浴は仲よし同士で入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や出来ること、得意なことを職員は熟知している。得意分野で力を発揮することで生活への張りや生き甲斐につながるように職員は個別サービスの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りを毎日散歩し気分転換や機能維持・向上に活かしている。買物は交代で車で出掛け、店内ではカートを押すなど買物を楽しんでいる。年数回、入居者、職員皆でお花見や紅葉狩り、外食などに出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について職員は認識している。外出傾向の入居者がいるが鍵をかけない対応を実践している。ホームの玄関脇には運営会社の事務所があり、訪問者や入居者の外出などを職員に知らせることもある。		

グループホームすずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら年2回の消防訓練、入居者参加の避難訓練を実施している。同時に消火器の取り扱い、通報の仕方、緊急連絡網の訓練も行っている。夜間は2時間毎に巡回を行い入居者の安全確保に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎日記録に残し一人ひとりの摂取状況を把握している。献立は食事準備ユニットの職員が入居者の希望を聞いたり旬の食材を取り入れながら作成している。献立表は保健所の栄養士に見てもらいアドバイスを受たり、主治医からは本人の検査結果を基に指示を得、栄養バランスに注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には2畳の畳敷きの空間があり、洗濯物をたたんだりベンチ代わりに利用されている。ソファコーナーは広く、ゲームやテレビを皆で見たり楽しむことが出来る。中庭は日向ぼっこしながら歌ったり、お茶を頂くなどの憩いの場となっている。広い廊下の先の大きなガラス戸や食堂の大きな窓からは紅葉した木々を眺めることが出来、入居者、職員等の会話が弾んでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具や食器、愛用品など馴染みの物の持ち込みの必要性を家族に説明し、本人が好む居室作りをお願いしている。居室のドアの横（廊下側）には2枚障子の小窓があり、居室内の消臭用として壁には珪藻土がインテリア風に埋め込まれている。		

※  は、重点項目。